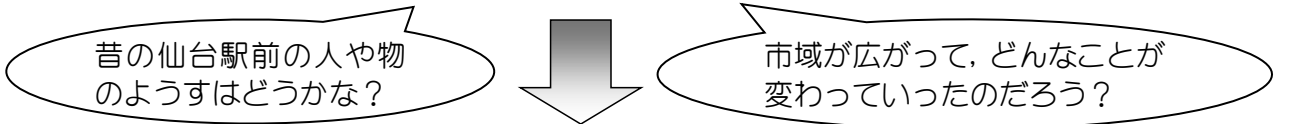


小単元名 p.52～63	市の様子と 人々のくらしの うつりかわり	小単元 の目標	市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
-----------------	----------------------------	------------	--

**つかむ**

p.52～53  
◎**仙台駅前の写真を見比べよう。**

- ・仙台駅前の建物や人々の様子について、気付いたことを発表させる。
- ・「戦災復興記念館ガイドボランティアの話」などから昔の様子についてわかったことを発表させる。
- ・昔の仙台市と今の仙台市の広さを見比べ、気付いたことや疑問に思ったことを発表させる。
- ・疑問に思ったことを基にして学習問題をつくり、学習計画を立てる。



**調べる**

学習問題  
**仙台市の様子は、いつごろ、どのようにかわってきたのでしょうか。**

**まとめる**

p.54～62

- ◎**土地の使われ方のうつりかわり**
- ◎**交通のうつりかわり**
- ◎**公共施設のうつりかわり**
- ◎**古い道具と今の道具をくらべよう**

- ・時期による違いに着目して、聞き取り調査をさせたり、地図などの資料で調べさせたりする。
- ・仙台市や人々の様子を捉え、それらの変化を考え、表現させる。

p.63

- ◎**仙台市のうつりかわりをまとめてみよう**

- ・調べたことを時期の区分や時間の経過に沿って一つの年表にまとめる。
- ・まとめた年表を見ながら、調べてきたことを相互に関連付けたり、結びつけたりして都市化や少子高齢化など仙台市全体の時期ごとの変化の傾向を考えさせ、分かったことを話し合う。

**いかす**

p.63

- ◎ **これからの仙台市について考えてみよう**

- ・仙台市の発展のための取り組みについて調べさせる。
- ・市役所などが作成している資料などを基に、仙台市が将来どのようなようになってほしいかを考えさせたり、討論させたりする。
- ・学習してきたことを生かしながら、仙台市民としてどのように行動していけば良いかを考えさせる。



**教科書の活用**

- 児童が学習を主体的・対話的な学習を進める際、教科書に記載されている「まなびのポイント」を参考にさせたい。
- 用語・語句を指導する際、教科書の「ことば」を活用したい。
- P127に記載されている「調べ方」「まとめ方」を活用し、学習の見通しを持たせたい。
- インタビューの仕方、見学の際のルールやマナーを確認させるため、P133のまなび方コーナー「インタビューのしかた」を活用させたい。
- 調べたことを年表にまとめさせる際、P137のまなび方コーナー「年表をつくる」を活用させたい。

【小単元の指導に当たって】

本小単元は、以下の3点をねらいとしている。

- ・市や人々の生活の様子が時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解させること。(知識)
- ・聞き取り調査をさせたり地図などの資料で調べさせたりして、年表などにまとめさせること。(技能)
- ・交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考えさせ、表現させること。(思考力、判断力、表現力等)

以上のねらいを達成させるため、仙台市歴史民俗資料館や仙台市戦災復興記念館などを見学させたり、児童の父母や祖父母に当時の様子の聞き取り調査をさせたりなど、体験的に学習させたいところである。また、市の移り変わりを考えさせ、表現させる際には、調べたことを相互に関連付けさせたり、比較・分類・総合させたりするなど、社会的見方・考え方を働かせて学習させたい。

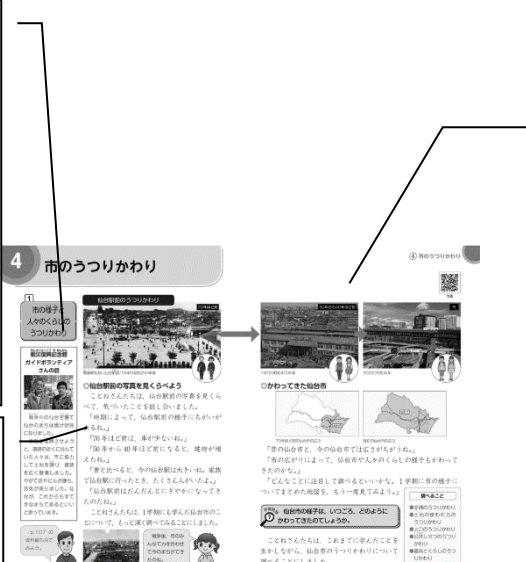
「戦災復興記念館ガイドボランティアさんの話」

取材日：2019年8月20日

取材に応じてくださった姉妹は、戦争や空襲の恐ろしさ、そして焼け野原になった後の仙台市民のたくましさを語っていた。戦後の人々の協力で、仙台は模範的な戦後復興と言われているとのことであった。

本文

1学期の単元「市の様子」で学んだことを十分に生かして本単元の学習に繋げたい。1学期に市の様子についてまとめた地図などと、昔の仙台市を見比べ、児童から疑問を引き出して学習問題をつくる。



写真「仙台駅前」

- 3代目駅舎(1945～1949)  
⇒仙台空襲から1ヶ月後に木造バラックで急造されたもの。
- 4代目駅舎(1949～1972)  
⇒大時計で親しまれた。
- 6代目駅舎(1977～現在)  
⇒つくられた当初はペデストリアンデッキもバスプールもなく、出入り口は全て1階であった。

地図・本文「交通のうつりかわり」

3つの地図を見比べ、仙台の交通の発展について考えさせる。新しい道路や新幹線、地下鉄などどのように整備されてきたか調べさせたい。

また鉄道という用語については、教科書 P128 を活用し、内容をおさえさせたい。

写真「仙台市電」

1926年に開業し、1976年に廃止された。仙台駅前、県庁市役所前、大学病院前などを繋ぐ環状路線と、原町や長町、北仙台、八幡へと延びる支線があった。現在は地下鉄富沢車両基地内にある「仙台市電保存館」にて、車両や関係資料が展示されている。

用語・語句

学指導要領には内容の取り扱いにおいて「時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げること」とある。教科書 P125 の「ことば」を活用して学ばせたい。

本文・写真

交通手段が増えたことにより、人々の生活がどのように変化したかを考えさせたい。

P57以降で国際化についても扱うので、国外との繋がりについても気付かせたい。

そして、交通が便利になった仙台市全体の変化についても意識させ、次の「土地利用の変化」や「人口の変化」へと繋げたい。

写真「仙台空港とアクセス線」

仙台空港は名取市にあるが、2007年に仙台駅から直通の仙台空港アクセス線が開業したことにより、仙台市の空の玄関口としてとても便利になった。



地図・本文「土地の使われ方のうつりかわり」

3つの地図を見比べ、土地の使われ方の変化について考えさせる。泉パークタウンなどの住宅開発や、卸町や扇町周辺の工業団地建設など、大きく変わった仙台市の土地利用の様子について調べさせたい。



地図・本文「土地の使われ方のうつりかわり」

昔、中心部以外の山林や農地が多かった場所が、現在は住宅地になっていることなど、市全体を見渡して違いを捉えるようにすることも大切である。

市役所の人のお話

昭和30年代から昭和50年代に、たくさんの団地が作られたことと、田や畑が減ったことを関連付けさせたい。また、次時の人口が増えたことにも繋げたい。

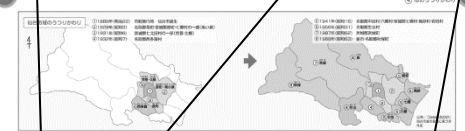
Text and images from the 'City Office Person's Story' section, including a photo of a city official and a QR code.

本文

交通網の広がりや、工場の立地を関連付けさせたい。仙台港の建設とも関連させ、計画的に土地の使われ方が変わってきたことに気付かせたい。

人口のグラフ (仙台市の人口)

人口の時期による違いに着目し、現在に至るまでに変化してきた仙台市の人口について調べさせる。その際、市町村の合併による仙台市の広がりなどにも触れることも大切である。



人口のグラフ

(14歳以下, 65歳以上)

棒グラフを活用し、少子化や高齢化が進んでいることにも気付かせたい。

Text and images from the 'Population Graph' section, including a bar chart and a QR code.

本文

行政区域の沿革

- 1889年 仙台市ができる。
- 1928年 長町, 原町, 南小泉を編入
- 1931年 七北田村, 荒巻, 北根を編入
- 1932年 西多賀村を編入
- 1941年 中田村, 六郷村, 七郷村, 岩切村, 高砂村を編入
- 1956年 生出村を編入
- 1987年 宮城町 (愛子, 作並, 吉成, 栗生など) を編入
- 1988年 泉市, 秋保町を編入
- 1989年 政令指定都市となり, 5つの行政区が設置される。

グラフ (外国人住民の人口)

人口の変化を取り上げる際、外国人居住者が増え、国際化が進んでいることなどにも気付かせたい。

地図・本文「公共しせつのうつりかわり」

3つの地図を見比べ、公共施設の変化について考えさせる。どのような公共施設が建てられてきたか、自分たちの学校や近くの図書館、市民センターなどの公共施設が建設された頃と、現在の仙台市の様子について調べさせたい。



仙台市民図書館の館長さんの話

学習指導要領解説には、「公共施設との関連を図り」とある。実際に市民センターや市役所、図書館へ行って見学したり、職員にインタビューしたりすることなども考えられる。その際、公共施設の建設や運営には市役所が関わってきたことや、その建設や運営には租税が重要な役割を果たしていることにも触れることが大切である。

写真

公共施設については、学習指導要領解説には「学校、図書館、公民館（市民センター）、資料館などが考えられる」とある。

仙台市内の公共施設については、P92～の「仙台市内にあるいろいろ施設」も参照する。

本文

公共施設の建設と、仙台市の人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考えて表現させたい。人々の生活の変化から、生活の道具や服装などの変化へと繋げたい。

写真・本文「古い道具と今の道具を比べてみよう」

生活の道具については、学習指導要領解説には「炊事や洗濯などの家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具を取り上げること」とある。

ここでは、仙台市歴史民俗資料館の館長さんの話から関連し、暖を取る道具を取り上げた。炊事や洗濯の道具については、教科書に載っているので参照したい。

仙台市歴史民俗資料館

大きく三つのテーマ別資料館がある。

- ・「農村の暮らし」
- ・「町場の暮らし」
- ・「旧陸軍歩兵第四連隊コーナー」

他に体験学習室なども常設している。

《体験できるもの》

折り紙、双六、チャカポコ、お手玉、けん玉などの伝承遊び

《事前に連絡しておくことで可能な体験》

- ・石臼による粉ひき体験
- ・行灯（あんどん）の明るさ体験



表「仙台市のうつりかわりをまとめてみよう」

時期の区分や時間の経過に沿って、調べたことを年表などにまとめる技能を身に付けさせたい。そして、出来上がった年表を基に、それぞれの項目を相互に関連づけ、気付いたことや変化の傾向を文章で記述させることも考えられる。

本文「これからの仙台市について考えてみよう」

市政だよりなどの資料を基に、これからの仙台市の発展に関心を持たせ、仙台市が将来どのようなようになってほしいか、そのためには仙台市民としてどのように行動していけばよいかなど、仙台市の将来について考えたり議論したりすることができるよう指導したい。